

# 放射線災害復興を推進する フェニックスリーダー 育成プログラム



## お問い合わせ

広島大学フェニックスリーダー育成プログラム事務室

〒734-8553 広島県広島市南区霞1-2-3 霞地区運営支援部 学生支援グループ内

TEL : 082-257-1995

E-mail : phoenix-program@office.hiroshima-u.ac.jp

<https://phoenixprogramlp.hiroshima-u.ac.jp/>



広島大学



## 広島大学から始まる 世界基準

広島大学卓越大学院・大学院リーディングプログラム機構長

**越智光夫**

広島大学 学長

原爆被災後の広島復興を共に歩む中で、広島大学は初代の森戸辰男学長が掲げた「自由で平和な一つの大学」というスピリットを受け継ぎ、独自の使命を持った総合研究大学として発展を遂げてきました。その中で、放射線の人体影響や被ばく医療に関する研究、復興に関する社会科学研究の成果が蓄積されてきました。また、平成16年から、我が国の緊急被ばく医療体制の拠点として被ばく医療体制の整備事業を実施して参りました。

平成23年に福島第一原子力発電所事故が発生したときには、広島大学に蓄積した経験と知識を福島の皆様のために少しでも役立てようと1,300人余りの被ばく医療支援チームを派遣し、様々な支援活動に従事して参りました。

この様な経験を反映し、本学では平成23年に博士課程教育リーディングプログラムとして、「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」を創設しました。このプログラムは、従来の学問領域・研究領域の枠組みを超え分野横断的な学術分野に立脚し、放射線災害からの復興という国際的な課題を解決するグローバルリーダーの育成を目的とするものです。世界トップクラスの総合研究大学を目指す本学の総力を結集することで、世界基準となる大学院教育プログラムを創設し、広島から世界の安全・安心を支えます。その志を分かち合える人財を育成するために、存分に学修に専念できる支援体制を整えました。ともに夢と希望を語り合える仲間を待っています。

広島大学卓越大学院・大学院リーディングプログラム機構は、本学大学院に優秀な学生を受け入れ、従来の学問分野・研究領域の枠組みを超えて、独創的に課題に挑み、幅広い知識をもとに物事の本質を見抜く力等を備えたリーダーを育成することを目的として設置されました。学長を機構長とし、全研究科長が委員として参加しています。



## 世界の放射線災害復興を 支えるリーダーを育成します

プログラム責任者

**津賀 一弘**

広島大学 理事・副学長

放射線災害は、健康被害や環境汚染、風評被害など、社会に大きな影響を及ぼします。放射線災害からの復興には、幅広い分野にまたがる知識や技術だけでなく、俯瞰的に事態の本質を捉え、困難な課題に果敢に挑戦できる強い意志とリーダーシップを持つ人財が求められます。地球規模の災害であるため、国際社会や国際機関との連携も不可欠です。

本プログラムは、世界初の被爆地である広島復興を支えた広島大学が、福島原発事故と復興でのさらなる経験を踏まえ、総力を結集して創設されました。学生たちは、幅広い分野の学術と技術を習得するとともに、福島や放射線災害関連地域でのフィールドワークや国際機関などでのインターンシップを通じて実践力を涵養します。広島大学は、世界唯一のこのプログラムを国際標準の大学院プログラムとするため、最大限の努力を傾けています。

本プログラムで育った人財が、被災された人々の支えとなり、安全で安心な地球の再生に貢献できることを心より願っています。

# フェニックスリーダー育成プログラムについて

## ■ プログラム設置の目的

「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」は、グローバルな放射線災害復興専門家育成の必要性和、原爆からの復興を支えた広島大学の実績と経験を背景に、「幅広い学際的な知識を基盤として放射線災害に適切に対応し、明確な理念の下で復興を指導できる判断力と行動力を有した、国際的に活躍できるグローバルリーダー(フェニックスリーダー)」を育成します。

## ■ フェニックスリーダーに求められる能力

「放射線災害復興のグローバルリーダー」としてフェニックスリーダーの根幹をなすのは次の3つの能力です。

- 国際力**  
国際社会でリーダーシップを発揮することができる力
- 学際力**  
分野横断的な知識の全体を俯瞰し、適切に活用できる力
- マネジメント力**  
状況を科学的に捉え、より良い状況に向けて合意形成を導くことができる力



## ■ 3つのコースによる放射線災害復興の専門家育成

放射線災害復興には「放射線災害から生命を護る」、「放射能から環境を護る」、「放射能から社会と子どもを護る」という3つの課題への対応が欠かせません。本プログラムでは3つのコースで各課題に対応する専門家を育成しています。

### 放射線災害から生命を護る

- 被ばくの影響評価とその診断・治療
- 放射線による発がんや遺伝的影響の機序とリスク評価
- 放射能汚染ストレス下のメンタルケア

### 放射線災害医療コース

このコースで育成する人材  
放射線災害対応の専門知識・技術を有する  
医師、歯科医師、獣医師、高度医療専門職

### 放射能から環境を護る

- 核分裂反応や反応生成物の科学的性質の分析
- 環境や農林水産物中の放射性物質汚染の測定・評価・解析
- 放射性物質の除染や放射性廃棄物の適切な処理・保管

### 放射能環境保全コース

このコースで育成する人材  
環境放射線の測定や放射性物質の動態を解析でき、除染、放射性廃棄物の処理・保管の専門知識・技術を有する放射線防護や放射線安全の専門家

### 放射能から社会と子どもを護る

- 放射線災害・風評被害がもたらす社会不安の軽減
- 被災住民のコミュニティ再構築の支援
- 放射能汚染ストレス下における健全な子育て環境支援

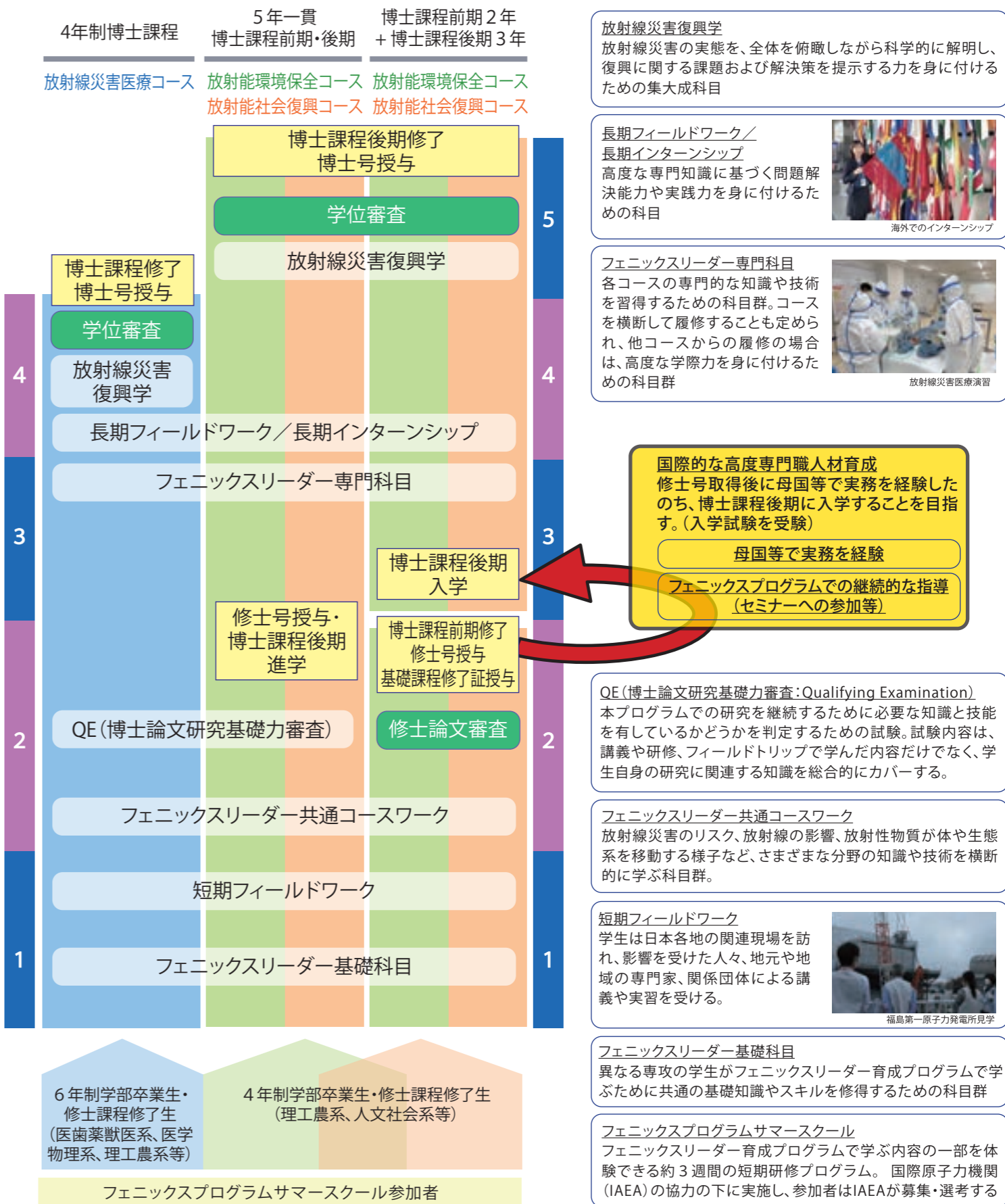
### 放射能社会復興コース

このコースで育成する人材  
放射線リスクや放射線防護の知識を有し、リスクコミュニケーション、科学リテラシーの向上に向けた取組みの推進に従事でき、コミュニティ再構築や行政施策に貢献できる専門家

# カリキュラム概要

## ■ コース別履修モデル

フェニックスプログラムの学生は、所属する大学院の修了に必要な科目に加えて、フェニックスプログラム独自の科目等を受講します。



# 国内外連携体制

## ■ フェニックスリーダー育成に向けた連携体制

フェニックスリーダー育成プログラムは、国内外の産学官連携により、インターンシップやトレーニングなど多様な機会を提供しています。主な連携先から、専門家がプログラムに参加し担当者や客員教授として学生を指導するほか、プログラム運営への助言を行っています。

インターンシップ・トレーニング等受入れ機関・企業

国際原子力機関 (IAEA)、国際放射線防護委員会 (ICRP)、フランス原子力防護評価センター (CEPN)、フランス放射線防護原子力安全研究所 (IRSN)、米国 Memorial Sloan Kettering Cancer Center、ペンシルベニア大学、原子力規制庁、五洋建設 (株)、(国研) 国立環境研究所、(株) 千代田テクノロ、マツダ (株)、南相馬市立総合病院、(国研) 量子科学技術研究開発機構



福島第二原子力発電所見学



IAEAでのインターンシップ

## ■ 国際的に活躍する専門家からのメッセージ



メイ・アブデル・ワハブ 元国際原子力機関 (IAEA) 保健部長

広島大学の客員教授として、私はフェニックスリーダー育成プログラムの優れた教育や学生を良く知っております。プログラム学生は、グローバルリーダー、そして、放射線災害復興に貢献する人材への需要に応えることになるでしょう。

フェニックスリーダー育成プログラムは、実践的な経験や研究の機会を提供するという点でユニークです。カリキュラムでは共通科目に加えて、放射線医学、環境そして社会の復興などに関する多様な専門分野を提供しています。また、学生はIAEAを始めとする機関でのインターンシップを通して国際的な経験の機会に恵まれています。広島大学の経験豊かな指導者の下、確実に育つ学生たちが、プログラムを成功に導くことでしょう。



ジャック・ロシャール 元国際放射線防護委員会副委員長

原子力発電所の事故の後に、汚染された地域に住むことで、人々はたくさんの問題や不安を抱えるという深刻な状況に置かれます。

身近な生活環境の中の汚染物質の存在は、住民の生活の全ての局面に多大なる影響を及ぼします。そのような状況においては、放射線による健康被害の可能性から人々を守るだけでなく、尊重すべき生活習慣や暮らしといった生活水準を維持していくことも重要な課題となるでしょう。チェルノブイリと福島の経験で明らかとなったことは、生活環境の復興過程のなかに地域住民が関わっていくことがなければ、住民の中に、自分たちの生活を自分たちで作上げていくことができないという感覚、疎外感、見捨てられ感、そして生活の場が失われたという喪失感、さらには専門家や政府に対する不安感が生じてくるということです。

どのようにすれば原発事故の後の複雑に絡み合う諸問題を少しでも軽減することが出来るのでしょうか。またどのようにすれば、被災した人々の不信感や自立の感覚の喪失、意欲の低下といった、原発事故がもたらしうる広範な影響を防ぐことが出来るのでしょうか。

これらは原発事故後の汚染地域での生活復興に関連する主要な課題と言えるでしょう。これらの課題に取り組むことは、科学、技術や基準の問題だけでなく、被災した住民の自由、正義、尊厳といった根源的価値の尊重を求めていくことでもあります。この点において、放射線災害からの復興のためのフェニックスリーダー育成プログラムは、世界各国から入学する学生に原発事故に対する科学的側面と人間的側面への洞察を同時にもたらすという独自性を持った博士プログラムなのです。

これらは原発事故後の汚染地域での生活復興に関連する主要な課題と言えるでしょう。これらの課題に取り組むことは、科学、技術や基準の問題だけでなく、被災した住民の自由、正義、尊厳といった根源的価値の尊重を求めていくことでもあります。この点において、放射線災害からの復興のためのフェニックスリーダー育成プログラムは、世界各国から入学する学生に原発事故に対する科学的側面と人間的側面への洞察を同時にもたらすという独自性を持った博士プログラムなのです。

# 入学について

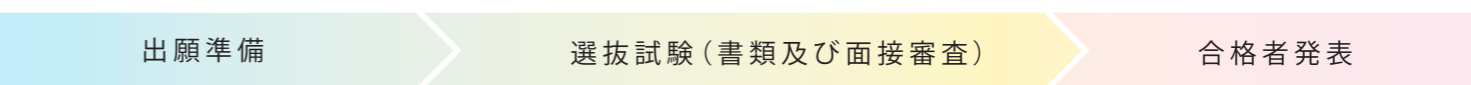
## ■ アドミッションポリシー

本プログラムでは次のような学生を求めています。

- 横断的知識と技術を身につけ、社会の発展に貢献したい人
- 人の痛みがわかり、災害復興に貢献したいと強く願う人
- リーダーとなって、地域・国際社会で活躍したい人
- 意欲、行動力、責任力、人間力に優れた人

## ■ 入学選抜の概要

アドミッションポリシーに基づき、以下のような手続きで入学者を選抜します。なお、入学者選抜は英語で実施します。



- ・主任指導を希望するプログラム担当教員の手配
- ・出願資格のチェック
- ・卒業証明書等必要書類の手配

- ・研究計画
- ・小論文
- ・個人面接
- ・プレゼンテーション

合格者発表

※募集定員は各コースともに若干名です。

※放射線災害医療コースでは「放射線災害から生命を守る医師枠」推薦入試も実施しています。

※選抜の実施時期は変更する場合がありますので、必ずホームページ (<https://phoenixprogramlp.hiroshima-u.ac.jp/>) をご確認ください。

## ■ プログラム入学者

世界中から優秀な学生が集まり、切磋琢磨しながら学んでいます。



在校生の声

- 学生生活では、様々な科学分野における現代の技術や方法について多くの知識と新たな洞察を与えてくれており、将来の私の知識と技術を向上させると感じています。
- このプログラムを修了した後、私の次のキャリアにとっても役立つと感じています。フェニックスプログラムは、放射線災害医療分野だけでなく、放射線科学、環境学、そしてコミュニケーションまで、幅広く学ぶことができます。

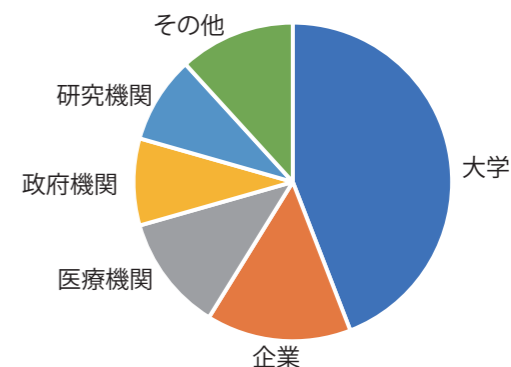
## ■ 学生支援

本学の定めた取扱いに則り、以下の支援を行っています。(令和6年8月現在)

- ・奨励金支援
- ・授業料免除支援
- ・プログラム履修に必要な経費  
(※支援内容等に変更が生じる場合があります)

## ■ プログラム修了者

国内外の教育・研究機関や企業などで幅広く活躍しています。



修了生の声

- 問題解決における学際的なアプローチは、私の仕事に非常に役立っていると感じています。
- 分野横断的に学び、プログラム内外の学生、教員、スタッフ等とディスカッションした経験は、大変有意義でしたし、現在の業務でも英語で学んだ経験は、論文執筆などの際に大いに役立っています。
- 相互理解を達成するために、どのように繋がり、橋渡しし、協働するか、そして、懸念や問題などをどのように解決するか学ぶ事が出来た。

## ■ 修学支援

- ・複数指導教員体制  
主任指導教員に加えて、3つのコースから副指導教員による修学支援体制を構築
- ・キャリアパス支援  
インターンシップ時のマッチング支援や、各界のリーダーによるセミナーなど